

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)シノテスト大野台5丁目計画	階数	地上4F
建設地	神奈川県相模原市南区大野台五丁目2502-1,4-5,6-7,8-9,10-12,2503-8-9,10-11	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2022年10月18日
敷地面積	4,600㎡	作成者	野村建設工業株式会社 一級建築士事務所
建築面積	2,125㎡	確認日	2022年10月18日
延床面積	7,357㎡	確認者	野村建設工業株式会社 一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 省エネ機器の採用により環境負荷の低減を図るとともに、執務空間を工夫し、リフレッシュスペースを導入するなど、機能性を高めつつ、快適な室内環境の確保と建物の維持管理にも配慮した計画としている。		その他 特になし
Q1 室内環境 F☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用し、全館禁煙にするなど、室内の空気環境に配慮しつつ、高遮音性能の開口部を採用することで、豊かな居住環境となるように配慮した。	Q2 サービス性能 配管材料や仕上げ材は、耐久性の優れた材料を採用し、維持管理が容易な材料の選定を行うことで、性能が長期間にわたり保たれるように配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内には可能な限り緑化を設け、また道路沿いに樹木を計画することで、周囲に溶け込む建物となるように配慮した。
LR1 エネルギー LED照明を採用し、建物の省エネルギー化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル 省資源化に配慮し、一部の部材にはグリーン購入法適合商品を採用したほか、断熱材にはODP及びGWPが低いものを使用した。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ を低く抑えることにより、長期にわたり環境負荷を軽減し、地球温暖化の防止に付与できる建物となるように配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される